

高校歴史総合

大項目「B 近代化と私たち」

中項目（4）近代化と現代的な諸課題（統合・分化）

授業タイトル：チャーすが（どうする）琉球!?Part 2

～「琉球処分」で、日本・清・琉球の問題は解決したのか～

めあて：「琉球処分」で、日本・清・琉球の問題は解決したのか。日清間の領土問題および琉球の人々の行動に着目し考える。

内 容：1879年4月に明治政府による沖縄県設置後も、沖縄では琉球王国時代の旧支配層に属する人々を中心に激しい日本への抵抗運動が起こった。琉球王国の維持・存続を主張する親清派の人々は、清へ亡命して琉球救国を訴えた。一方、琉球の帰属をめぐる日清間の交渉も外交問題として継続していた。アメリカ大統領・グラントの仲介によって、1880年「分島・増約（改約）」案が日清間で交渉され、最終的に宮古・八重山を清国に、沖縄諸島以北を日本領とする日本案で妥結されようとしていた。結果、日本案で合意をみたものの、清に亡命した琉球人（脱清人）の反対などにより、清は条約調印の段階でこれを棚上げ、交渉は決裂した。

「分島・増約（改約）」案決裂後も、琉球をめぐる帰属問題は継続したが、1894～1895年の日清戦争における日本の勝利をもって、琉球は完全に日本の領土となった。しかし、それ以降も脱清人や、尚家を世襲知事とする復藩運動である「公会運動」などが起こり、領土画定とは異なる、琉球の人々の行動もあった。

明治政府は、「琉球処分」直後から、士族層の不満を抑え、社会的混乱を避けるため王国時代の土地・税制・地方制度をそのまま存続させる「旧慣温存政策」を打ち出した。同時に、沖縄の言語や風俗を日本本土と一致させるために教育を重視する施策を行っていた。

	内容
導入 (5分)	<p>① 課題把握</p> <p>教師発言：前時で「琉球処分」の歴史的背景と、当時の琉球を取り巻く状況に着目し、琉球側の動きについて理解を深めました。前時の流れを振り返ってみましょう。</p> <p><b>【スライド1枚目】</b></p> <p>琉球の帰属に関して、日本・琉球・清・欧米のそれぞれの思惑を確認。琉球は琉球王国存続を求めて、明治政府と交渉を重ねたが失敗、清へ救国を請願、欧米各国へ窮状を訴える等した。</p> <p><b>【スライド2枚目】</b></p> <p>1879年（明治12）3月、明治政府は琉球処分官・松田道之と内務官僚41名、約400名の軍隊、および約160名の警察官を派遣。</p>

		内容
		<p><b>【スライド3枚目】</b></p> <p>松田道之は、琉球に対し藩王尚泰の上京、首里城明け渡し等を命じた。同年4月4日「琉球藩ヲ廢シ沖縄県ヲ置ク」ことが全国に布告され、約450年間続いた琉球王国は幕を閉じ沖縄県が設置された。</p> <p>教師発言：前時の最後に、新たな疑問として「その後、琉球と日本の関係はどうなったのか？」「『琉球処分』に反対していた人は、諦めたのか」「中国との関係は、どうなったのか」等がだされました。「琉球処分」後、日本・清そして琉球の関係がどうなったのでしょうか。</p> <p>これらの疑問から、本時の課題を設定しました。</p>
<p>展 開 ( 35 分 )</p>	<p>② め あ て</p> <p>③ 見 通 し ( 予 想 )</p> <p>④ 情 報 収 集  ( 知 識 ・ 技 能 )</p>	<p><b>【スライド4枚目】</b></p> <p>授業タイトル・めあての提示</p> <p>ちゃーすが(どうする)琉球!Part 2</p> <p>～「琉球処分」で、日本・清・琉球の問題は解決したのか～</p> <p>ワークシート配布</p> <p>めあてに対する予想を立てる。</p> <p><b>【スライド5枚目】</b></p> <p><b>問1</b> 【個人課題】</p> <p>「琉球処分」で、日本・清・琉球の問題は解決したのか。</p> <p>生徒予想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県が設置された時点で日本と琉球の問題は解決した。</li> <li>・抵抗した人々がいたので、終わっていない。</li> </ul> <p>琉球処分後の沖縄をめぐる状況を、前時に配布した年表の1879年以降で確認しながら、ワークシートに書き込む。</p> <p><b>【スライド6～7枚目】</b></p> <p><b>問2</b>：「琉球処分」について、清は賛成？反対？</p> <p>生徒予想(年表で探す)：反対。</p> <p>教師発言：年表1879年5月20日に「清国政府、琉球処分につき日本政府に抗議」と</p>

	内容
	<p>あるように、「琉球処分」以降も、清は反対していました。</p> <p><b>【スライド8枚目】</b></p> <p><b>問3</b>：清は、琉球の帰属問題を解決するため、ある国の人物に日本への仲介を依頼します。どこの国？</p> <p>生徒予想（年表で探す）：アメリカ。</p> <p>教師発言：1879年6月、世界旅行の途上に中国を訪問した、アメリカ前大統領・グラントに、琉球の帰属問題の調停を依頼しました。</p> <p><b>【スライド9枚目】</b></p> <p>教師発言：グラントの仲介により、1880年3月、中国の天津で琉球の帰属問題をめぐる日清の交渉が始まりました。日本は「分島・増約（改約）案」を提示。これは琉球の領域を日本と清に分け、さらに1871年に日本と清の間で結ばれた「日清修好条規」に、日本商人が中国内地で欧米諸国並の商業活動ができるよう条文を追加（増約）するという内容でした。一方、それを不満に思った清は「琉球三分割案」を提示しました。</p> <p><b>【スライド10枚目】</b></p> <p><b>問4</b>：日本の「分島・増約（改約）案」、清の「琉球三分割案」とは、琉球をどのように分割する案だったのでしょうか。ワークシートの地図に分割する境界線を予想して鉛筆で書き込み、それぞれどこに属するか、書いてみよう。</p> <p><b>【スライド11枚目】</b></p> <p>教師発言：では、PowerPointで確認します。正解を赤ペンで記入しましょう。</p> <p>まず日本の「分島・増約（改約）案」は、次の通りです。</p> <p>①沖縄諸島以北を日本領土とする（PowerPointで場所確認）</p> <p>②宮古・八重山諸島を清国領土とする（PowerPointで場所確認）</p> <p>そのかわり、1871年の「日清修好条規」に、日本商人が中国内地で欧米諸国並の商業活動ができるよう条文を追加（増約）するよう提案しました。</p> <p>そして中国の「琉球三分割案」は次の通りです</p> <p>①奄美諸島以北を日本領土とする（PowerPointで場所確認）</p> <p>②宮古・八重山は清国領土とする（PowerPointで場所確認）</p> <p>③沖縄諸島を独立させ、琉球王国を復活させる（PowerPointで場所確認）</p> <p>しかし、清の案を日本は受け入れず、交渉の結果、日本案で日清が合意。清国は宮古・八重山諸島を領土とし、そこで琉球王国を復活させることを想定していました。</p>

	内容
⑤ 考 察 ・ 構 想  (思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力)	<p><b>【スライド12～13枚目】</b></p> <p><b>問5</b>：琉球は、この「分島・増約（改約）案」に対して、どう思っていたのだろうか？            生徒予想（ワークシートの選択肢から選ぶ）：            ①琉球王国が復活するので賛成。            ②沖縄諸島の人は賛成。清国領土になる宮古・八重山諸島の人は反対。            ③琉球が二分割されてしまうので反対。</p> <p>教師発言：正解は③。脱清人の林世功をはじめとする清国亡命者の反対や、宮古・八重山で復活させる琉球王国の国主として清が打診した向徳宏（幸地朝常）の拒絶人あった。</p> <p>※「琉球処分」後も、琉球士族層の一部の人々は、清国へ密かに使いを派遣し、琉球を助けてくれるよう請願していました。このように清に亡命し、琉球の救国運動を展開した琉球人を「脱清人」といいます。</p> <p>前時でも触れた、脱清人・林世功（りんせいこう）は、「琉球処分」前の1876年、王府の命を受け、清国へ琉球の救援を求めました。1880年の「分島・増約（改約）案」で、清国が琉球を分割することを認めたことに対し、林世功は猛反発、「琉球二分割」「日本への帰属反対」を訴え、北京で自刃してしまいました。</p> <p>このように、清に亡命した琉球人（脱清人）の反対などにより、清は条約調印の段階でこれを棚上げ、交渉は決裂しました。</p> <p>もし、「分島・増約（改約）案」がそのまま調停されていたら、琉球は分割され、宮古・八重山諸島は中国領となっていたかもしれません。</p> <p><b>【スライド14枚目】</b></p> <p>教師発言：「分島・増約（改約）案」決裂後は、どうなったのでしょうか。年表を見てください。日清間の交渉が続いていますね。1882年2月には、琉球帰属問題解決のため、清の駐日公使が、東京にいた旧三司官の与那原良傑に「琉球の全面返還は無理だが、宮古・八重山に沖縄島南部を加えて琉球王国を復活させる案ならば可能」と打診した。これに対し東京の尚家は拒否。沖縄でも旧三司官の富川成奎（とみかわせいけい）が中国へ渡り、全面返還を訴えた。日清間の交渉としては、1882年3月30日「竹添・李会談で宮古・八重山に琉球王国を建国する『琉球二分割案』」が提示されるも暗礁に乗り上げた。中国へ渡った富川は、失意のうちに中国で亡くなった。</p> <p>それ以降も「1883年 脱清者あいつぐ」など、琉球側の清への救国運動は続きました。</p> <p><b>【スライド15枚目】</b></p> <p><b>問6</b>：日清間の領土問題に決着がついたのは、いつなのだろう。年表から探して、ワークシートに書いてみよう。</p> <p>生徒発言：1894年の日清戦争、及び翌年の下関条約。</p>

		<p>内容</p>
		<p>教師発言：日清戦争で日本が勝利し、台湾を領有しました。本州から台湾までの間に、琉球があるので、琉球の帰属についても決着しました。</p> <p><b>【スライド16枚目】</b></p> <p>教師発言：日清戦争後も、脱清人の活動や、尚家を世襲の沖縄県知事とする復藩運動である「公会運動」などが起こり、領土画定とは異なる、琉球の人々の行動もあった。しかし、そのような士族層を中心とする抵抗運動は徐々に終息していった。</p> <p><b>【スライド17枚目】</b></p> <p>明治政府は、「琉球処分」直後から、士族層の不満を抑え、社会的混乱を避けるため王国時代の土地・税制・地方制度をそのまま存続させる「旧慣温存政策」を打ち出した。同時に、沖縄の言語や風俗を日本本土と一致させるために教育を重視する施策を行っていました。</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>⑥ まとめ ⑦ 振り返り</p>	<p><b>【スライド18枚目】</b></p> <p><b>問7</b></p> <p>①今日の授業で分かったこと、②最初の予想と比べてどうだったか、③今日の授業を通して考えたことを文章でまとめてみましょう。</p>